

こころだより

2014春号



編集 広報委員会
発行 山口県立こころの医療センター
山口県宇部市東岐波4004-2
Tel. 0836-58-2370 (代表)

『精神科看護に願うこと』

看護部長 伊藤 恵子



今年の冬は東日本に比べ大きな寒波も襲来せず、穏やかな春を迎えようとしていますが、皆様にはますますご健勝にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

私は20年前より縁あって精神科看護に携わっておりますが、退職という春を迎え、昔を懐かしみながら看護への雑感を少し述べてみたいと思います。

赴任した静和荘は、精神科病院としては珍しく住宅地の中にあり、みごとな桜並木がありました。当時の療養環境は一般病院と比較して今ひとつでしたが、看護にあっては人員不足の中、集団的な関わりや受け持ち制を取り入れ、問題を抱えた患者さんに熱意を持って取り組んでいました。相談員などのコメディカルスタッフは僅かでしたので、急性期看護から退院支援のための自宅訪問やアパート探しまで看護の守備範囲は広く、医療を展開する上で看護の力は重要なものでした。特に私が驚いたのは、どの職員も患者さんやご家族のことを実によく把握していたことです。日常のこととして、看護の原点である「関心を持つこと」「患者に寄り添い、支援し続けること」が繰り返されていきました。看護の先輩から信頼関係の構築について教えられ、患者さんから育てられ、私は精神科看護に魅了されて居続けることとなりました。

あれから20年、念願の新病院が開院し、患者さんの療養環境は以前とは比較にならないほど改善されました。看護職員は時代の要請に応じた看護が展開できるようにと、知識・技術を高めるための自己研鑽に励んでいます。しかし、精神科救急医療への対応や疾患の多様化、身体合併症を併せ持つ患者の存在など、医療・看護に求められるものは年々増大し、そのことに翻弄されて、ともすれば看護の原点を見失いかげそうになります。しかし、どんなに時代が変遷しようとも、精神を病む人の抱く不安や苦痛は変わることはなく、看護はその人達の傍らに存在しています。患者さんやご家族との信頼関係を構築し、自己決定を尊重しながら支援し続け、看護者が一番のよき理解者となれるよう願ってやみません。

最後に、地域の皆様、看護管理や病院機能評価受審などの際大変お世話になった県内精神科病院や宇部・小野田医療圏域内看護部長の皆様、その他関係機関の皆様には、静和荘時代から様々なことで常に温かいご支援を賜り、言葉に表しつくせぬ感謝の気持ちで一杯です。20年間の皆様とのふれあいは、私の心の宝となりました。心より感謝申し上げますとともに、ますますのご健勝をお祈りいたします。

皆さまからの声について（意見箱の設置）

当院では、患者さんやご家族からのご意見や要望をお聞きし、今後の病院運営に反映させるため、外来待合及び入院棟計6か所に意見箱を設置しています。

意見箱に投函された皆さまからの声については、毎月2回収して必要な対応を行うとともに、医療相談検討委員会において協議し、その回答を院内に掲示しています。

すぐに解決できないこともあります。いただいたご意見については真摯に受け止め、誠実に対応したいと考えております。

平成25年度中にいただいたご意見及びその後の対応の一部をご紹介します。



外来待合の意見箱



院内での掲示

<意見要望>

病院内の患者専用道路に速度表示がありません。車のスピードが速くて怖いです。

<回答>

ご意見ありがとうございます。病院敷地内の道路に徐行運転の表示をし、対応いたしました。

運転される方は、病院敷地内は徐行の上、安全運転に心掛けてくださいますようお願いいたします。

<対応>

ご意見をいただいた後、事務部の方で簡易なものではありますが注意喚起の看板を設置しました。



<意見要望>

移動図書（患者さんへの貸出図書）の本の種類を増やしてほしい。

<回答>

移動図書は皆さまのご希望を取り入れ運営しています。ご希望の図書がありましたら、担当職員へお申し出ください。

<対応>

かねてよりご要望のあった入院患者さんへの図書貸し出し（こころ移動図書館）を平成24年12月より開始しましたが、その後も予算の範囲内ではありますが、患者さんのご希望等に沿うよう随時購入しております。

平成25年度は約200冊増冊いたしました。



<意見感謝>

入院中、スタッフの皆様に親切に笑顔で接していただき、環境もとても清潔、アットホームで感謝しております。

<回答>

ご意見ありがとうございます。今後とも皆様のご意見を参考にして、より良い医療サービスの提供に努めてまいります。

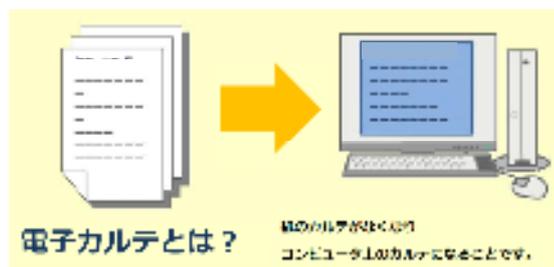
電子カルテを導入しました

平成26年2月1日（土）から、電子カルテの運用を開始しました。

電子カルテの導入には、診療情報が一元化されるという大きなメリットの反面、職員がパソコンの画面に向かいがちなため、患者さんに不安を与えてしまうという問題が指摘されています。

しかしながら電子カルテによる、患者さんの情報を多職種の職員が共有できるという大きなメリットを活かし、さらなるチーム医療の充実、質の高い医療の提供を目指しております。

導入したばかりで、なにかとご不便をおかけすることがあるかと思いますが、できるだけ混乱のないよう職員一同努めて参りますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。



認知症疾患医療センター研修会を開催しました

平成26年2月23日（日）山口市の県総合保健会館で約430名の参加を得て、認知症疾患医療センター研修会を実施しました。

この研修会はかかりつけ医をはじめとする保健医療福祉関係者に認知症に関する理解を深めてもらう目的で21年度のセンター開設以来、毎年実施しています。

我が国の認知症研究の第一人者と言われる筑波大学の朝田隆教授が「生活障害とBPSD対応からみる認知症ケアの考え方と高め方」と題して特別講演されました。認知症ケアについて、BPSDも大変だが生活障害は毎日あるから大変で、その生活障害にどのように対応して家族・当事者の満足度をあげるかに視点を置いて話されました。馬鹿にされ、やらされた、やってもらったでは恨みも残る。さっと手を添えられたら「あら出来ちゃったよ」。認知症ケアについて「やってあげるではなく」どうやって本人のパフォーマンスを高めるかを中心に、実際の介護にすぐに役立つ映像や漫画を取り入れたわかりやすい講演でした。

講演の最後は認知症介護にも通じ、患者家族にも伝えるべき言葉として、山本五十六の名言「やってみせ 言って聞かせて させてみせ 誉めてやらねば人は動かじ」で締めくくられました。参加者からは具体的でわかりやすく、明日からの実践に役立つとの声が数多く聞かれました。



高次脳機能障害支援センター研修会を開催しました

平成26年3月2日（日）当院の会議室で「神経心理学的検査研修会」を開催しました。神経心理学的検査とは、もの忘れなど生活に支障を来している行動の原因を明らかにし、次のステップにつなげていくため、知的機能や認知機能、記憶、実行機能などについて調べる検査です。

専修大学人間科学部心理学科の岡村陽子准教授を講師にお迎えし、高次脳機能障害の後遺障害等級認定の際に重要な資料となるWAIS-Ⅲを中心に、分析や解釈に係るスキルアップを目的に研修会を行いました。定員50名の中80名を越える応募があり、何人かには泣く泣く参加をお断りすることとなりました。当日は63名の参加者(医師・心理士・言語聴覚士・作業療法士)が、講義や事例検討をグループディスカッションしながら、朝9時から夕方4時まで熱気あふれる時間を過ごしました。

「様々な職種の方と事例検討ができ、考え方の幅が広がり、より実践的に勉強ができました」「検査から生活支援へと結びつけられるような考え方を知ることができました」など参加者から好評を得られました。来年度も同様の企画で研修会を開催する予定です。



病院理念

県民の心の健康を支える質の高い医療の提供

基本方針

- 1 急性期を中心とする医療
- 2 人権を尊重する医療
- 3 患者・家族と共に歩む医療
- 4 社会復帰を促進する医療
- 5 地域社会と連携する医療 の実践

患者さんの権利

当院職員は、患者さんの権利と意志を尊重して、満足度の高い医療を行うために最大限の努力を致します。患者の皆様が診察を受けられるにあたって、以下の権利が保証されています。

- 1 ひとりの人間として、人格や価値観を尊重される権利があります。
- 2 良質で公平な医療を受ける権利があります。
- 3 納得できる十分な説明と必要な情報を受けた上で、治療方法などを治療者と相談しながら自らの意志で選択する権利があります。
- 4 ご自分の診療記録の開示と説明を求める権利があります。
- 5 医療機関を選択し変更する権利があります。また、別の医師の意見（セカンド・オピニオン）を受ける権利があります。
- 6 個人情報およびプライバシーが守られる権利があります。
- 7 処遇や治療について不服の場合は、処遇の改善や退院を請求する権利があります。

診療のご案内

※4月以降変更になる場合があります。

外来診察担当医師				専門外来	
	初診	一診	二診		
月	兼行浩史・角田武久	磯村 信治	藤田 実	児童思春期外来	火…村田 水…加来
火	村田 由紀	三好 俊彦		物忘れ外来	水…中山
水		村田 由紀	新造 竜也	高次脳機能外来	水(第1・3)…兼行
木	藤田実・新造竜也	兼行 浩史	角田 武久	依存症外来	木…藤田
金	磯村 信治	藤田 実	加来 洋一		

一般外来・専門外来とも予約制となっております。予めお電話でご予約されてご来院ください。

外来直通電話：0836-58-2327

交通のご案内



お車/山口宇部道路「宇部東IC」より丸尾方面へ約5分

電車/JR 宇部線「丸尾駅」より徒歩約15分

バス/宇部市営バス「東岐波中学校前」より徒歩約10分

地方独立行政法人山口県立病院機構

山口県立こころの医療センター

〒755-0241 山口県宇部市東岐波 4004-2

TEL: 0836-58-2370 (代表)

:0836-58-2327 (外来直通)

FAX: 0836-58-6503

URL: <http://www.y-kokoro.jp/>

